

町営住宅の建設経緯

現在に至る町営住宅は、平成４９年度に鉄筋コンクリート３階建の四ツ角団地を建設したのが始まりです。

その後、需要の多様化に対応するため、昭和５３年度に円通寺団地を、昭和５５年度に河原町団地を建設し、現在に至っています。

N o .	施 設 名	完 成 年 度	構 造	述べ面積 (㎡)
1	四ツ角団地	昭和４９年度	鉄筋コンクリート壁式３階	7 0 8
2	円通寺団地	昭和５３年度	鉄筋コンクリート壁式４階	1 , 0 9 4
3	河原町団地	昭和５５年度	プレキャストコンクリート造 ３階	1 , 6 2 0

診断の結果

建築基準法（施行令）の改正により新しい耐震基準（いわゆる新耐震基準）が施行されたのは、昭和５６年６月１日のことで、この日以降に建築確認を受けた建物に対して新耐震基準が適用されています。

町営住宅は旧耐震基準で作られており設計強度の不足が予想されるため、平成８年度に耐震診断を行いました。

１次診断で I_s 値が 0. ８以上となった建築物は安全と判断されます。

※ I_s 値とは・・・構造耐震指標といわれ、当該建築物に耐震性があるかないかを図る指標です。

【四ツ角団地】

階数	X 方向（長辺方向）	Y 方向（短辺方向）	構造耐震判定指標 Iso
	I_s 値	I_s 値	
1 階	1.209	2.898	0.8
2 階	2.633	1.794	0.8
3 階	2.471	1.417	0.8

◎判定・・・良好な耐震性を有する。大地震に対しては局部的な軽微な被害が生じる可能性がある。

【円通寺団地】

階数	X 方向（長辺方向）	Y 方向（短辺方向）	構造耐震判定指標 Iso
	I_s 値	I_s 値	
1 階	0.750	1.420	0.8
2 階	0.807	1.519	0.8
3 階	1.090	2.051	0.8
4 階	2.067	3.849	0.8

◎判定・・・X 方向においては、ある程度の耐震性を有するが、大地震において被害が生じる可能性がある結果となった。これは、耐震診断基準が壁式鉄筋コンクリート造を対象とした基準でないことに起因すると思われる。しかし、現行基準の「壁式鉄筋コンクリート造設計・計算基準」により再計算を行ったところ、各規定値を十分満足している。

【河原町団地】

階数	X 方向（長辺方向）	Y 方向（短辺方向）	構造耐震判定指標 I so
	I_s 値	I_s 値	
1 階	0.876	1.139	0.8
2 階	1.077	1.400	0.8
3 階	1.952	2.538	0.8

◎判定・・・建物の所定の耐震性能は確保できているものと判断される。